

# 平成24年度 情報公開および個人情報保護条例運用状況

平成24年度中に条例に基づいて行われた情報公開および個人情報開示等の請求件数や処理状況などを公表します。

## ■情報公開実施件数

情報公開請求件数	113件	
(公開件数)	全部公開件数	104件
	一部公開件数	8件
(非公開件数)	非公開件数	0件
	不存在等件数	1件
不服申立件数	0件	
審査会への諮問件数	0件	
訴訟件数	0件	
公文書公開申出件数	9件	

## ■個人情報開示等件数

個人情報開示請求件数	8件
訂正および利用停止請求件数	0件
不服申立件数	0件
是正申出件数	0件
審査会への諮問件数	0件
訴訟件数	0件

※1件で複数文書の公開請求があったもののうち、文書ごとに「全部公開」「一部公開」「不存在等」など、処分が異なった場合は「一部公開」として計上しています

●問い合わせ 総務課総務・危機管理室 ☎53-2111(内線313)

## なるほど健康



### ばーきんそん騒動記

県立坂町病院 神経内科部長

新井 亜希

「私、手がふるえるから『ばーきんそん』なんです」「いいちゃんか歩けなくなつて『ばーきんそん』と言われた」「テレビで見た薬をくださいー！」

このように駆け込んでくる方が数え切れないほどおられます。まずは診察と検査を行いましょう、と申し上げても、「テレビで言ってたし、インターネットで書いてあったし、早く薬をくださいー！」と、お叱りを受けることもございます。

しかしながら、パーキンソン病やパーキンソン症候群の診断と治療は神経内科専門医でも細心の注意を必要とするものであり、単純なものではありません。実際、『ばーきんそん』と駆け込んでくる方々のうち、本当に典型的なパーキンソン病である方は一部であり、その他の病気や原因をお持ちであることも多いのです。

特に高齢者の場合、内科の病気をはじめとする様々な病気や薬の影響でふるえたり、歩けなくなつたりしてしまうことがあります。ですから、きちんと原因をつきとめて、原因に応じた

対応をすることが重要です。単純にパーキンソン病治療薬を使用すればよいというものではありません。

「ばーきんそんだー！」と駆け込んでくる方を診察する際にはまず、その方が内服しておられる薬を詳細に調べます(受診時にはお薬手帳を持参してください)。なぜなら、人によっては、内科の病気などの治療のために必要だからこそ使用されている、ごくごく一般的な普通の薬によってパーキンソン症候群が生じてしまうことがあるからです。

認知症として多くの薬を内服しておられる場合にも注意が必要です。そして、パーキンソン病治療薬によって症状が、むしろ悪化したり、幻覚を生じたりする病気もあるので話は複雑です。ですから、様々な事柄に配慮することが必要であり、神経内科専門医でも細心の注意を必要とする、大変難しい舵取りを考えなくてはなりません。

さて、いざ治療方針が決まっても薬の調整には時間がかかります。「テレビで言ってた薬をください」「すぐに特効薬を処方できないのか」「通院が大変だから、すぐに治せ！」などと言われることも多いのですが、その方に最適で副作用の少ない治療を行うためには、時間をかけた丁寧な治療が必要です。症状をゼロにはできなくても、正しい治療によって、より快適に過ごすことは可能です。じっくりと治療に取り組むことが重要なのです。